

南三陸診療所拡充へ

年内にも 建て替え 外来機能を集約

南三陸町は、東日本大震災で被災した公立志津川病院の外来機能を担う「公立南三陸診療所」（同町志津川沼田）について、年内にも拡張して建て替える方針を決めた。平屋のプレハブ棟が連なる診療所は手狭で、長期的な使用は困難だと判断した。患者の利便性向上を図るために床面積を3倍以上広げ、医療機器を拡充して救急医療に対応する。



建設予定地は町総合体育館敷地内の町有地で、診療所の150坪東側。構造は同じプレハブだが、総床面積は現在の約470平方メートルを大幅に拡張し、1500平方メートルを予定している。平屋か2階建てのいずれかで建設するといふ。

建設費や医療機器購入費を合わせた総事業費は6億円となる見通し。町は年内完成を目指し、

近く設計に入りたい考え。現在の診療所は、受け付けや診療、薬局などが約10棟のプレハブに分かれているため、患者はそこの都度屋外へ出なければならなかった。待合室前に入りきらない患者もいるなど手狭さの解消が課題だった。新診療所では大型プレハブを採用し、同一の建物内で診療科間を移動できるようにする。

イスラエル医療チームから譲り受けたプレハブを使っている公立南三陸診療所

医療環境の改善も大きな課題となっている。各診療科には水道が接続されておらず、屋外の仮設トイレを利用している状態。

態。新たな診療所では合併浄化槽を設置して対応するほか、救急診療態勢の拡充に向けてCITスキヤンなどの医療機器も整備する。

震災で被災した公立志津川病院は4月、イスラエル医療チームから譲り受けたプレハブ施設を活用して診療所を開設。内科や外科、耳鼻科など9診療科で外来診療に当たっている。入院機能については、6月に登米市米山町の市立よねやま診療所内に移転している。

町は将来的に公立志津川病院の再建を目指している。病院再建までの期間、新たな診療所を地域医療を支える拠点として位置づける。